

ヴォリュームアキュライザーの導入(16)
ーフェーダーへの適用ー

1. 始めに

今回は、P&Gのユニットを組み込んだしなの音蔵オリジナルのフェーダーのヴォリューム調整ノブに適用してみます。

2. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴方法

今回は、アナログ音源でVRA-7の効果を確認します。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→
(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバ
ランスケーブル)→(AACU-1000)→しなの音蔵オリジナルフェーダー→(AACU-
1000)→(アンバランスケーブル)→Langvin 6V6pp

このフェーダーは、バランス入出力の端子しかありませんので、バランス/アンバ
ランス変換アダプターを使用します。

また、ヴォリューム調整ノブは指かけのための円弧上の凹みがありますので、両面接
着テープを切って凹みを埋めてからVRA-7を貼りつけます。



音源は、聴きなれた下記を使用しました。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーベン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー：ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

Angel (東芝 EMI) AA 9117・C

ゲオルグ・フードリッヒ・ヘンデル：メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

3. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴結果

ZANDEN Model 120 の設定条件は、これまでの経験での条件を適用しています。

最近はずっと **TruPhase** 経由で聴いていますので、このフェーダーで聴くのは久しぶりですが、懐かしい音が戻ってきました。なお、フェーダー経由から **TruPhase** 経由への移行については **TruPhase** の導入(2) で報告しています。

このフェーダーのヴォリューム調整ノブに **VRA-7** を貼りますと、バッハのソナタとパルティータでは、ミルシュテインのヴァイオリンの艶がまし、ボウイングの様が明瞭になります。

選帝侯のソナタでは、ケンプのピアノ美音はそのままに打鍵がクリアになります。

ワルキューレでは、オーケストラの分離がよくなり、ソプラノやメゾソプラノの声に張りがでてきます。

メサイアでは、合唱の濁りがとれ、弦やシュワルツコップのソプラノの透明度が向上します。

TruPhase の場合との比較では、ともに効果は大きいのですが、**TruPhase** とフェーダー自体の音がベースになって、そのまま平行移動した感じで、**TruPhase** の音の抜けの良さが目立ちます。

4. まとめ

しなの音蔵オリジナルフェーダーのヴォリューム調整ノブへの適用により、アナログ再生における **VRA-7** の効果を認めました。

以上